

日本人初のHIV-2感染症例報道について

標記の報道は、8月11日に国内で初めて確認された日本人のHIV-2感染症例について、遅れて報道されたもの。

本件に関しては、既に8月11日付けで、都道府県・政令市等及び日本医師会に対してHIV-2に配慮した診療の実施と情報の周知、HIV-2抗体検査の実施を徹底するよう通知を発出し、適切な対応をとっているところ。

(参考)

HIV-2はHIV-1に比べ、病原性や感染性は低く、病気の進行は緩慢で長期にわたって無症候で留まる。



健疾発第0811001号
平成18年8月11日

各 { 都道府県
政令市
特別区 } 衛生主管部(局)長 殿

厚生労働省健康局疾病対策課長



医療機関及び保健所に対するH I V - 2 感染症例の周知について (依頼)

この度、別添のとおり、我が国において初めて日本人における遺伝学的に完全な確証が得られたH I V - 2 感染症例が確認され、「厚生労働省健康危機管理基本指針」に基づく健康危険情報として厚生労働省に報告されたところである。平成14年に我が国において初めてのH I V - 2 感染症例の周知(平成14年10月24日付健疾発第1024001号厚生労働省健康局疾病対策課長通知「医療機関及び保健所に対するH I V - 2 感染症例の周知について」)を行っているが、今回改めて、貴職おかれても、管内医療機関に対し当該情報の周知とともに、H I V - 2 に配慮した適切なH I V 診療の実施を指導されるよう特段の御配慮をお願いする。

また、貴管内保健所においても、当該情報の周知及びH I V - 2 抗体検査実施の徹底を図るよう、併せてお願いする。

(別 添)

本邦医療機関受診者のH I V - 2感染について

平成18年8月
厚生労働省健康局疾病対策課

平成18年8月11日、「厚生労働省健康危機管理基本指針」に基づき、エイズ対策研究主任研究者より疾病対策課に対して以下の事例が報告された。

【症例】

西アフリカにおいて輸血歴を持つ男性が気管支喘息を主徴として本邦医療機関を受診した（入院後、加療により症状改善し、退院）。同患者は入院時検査にてH I V抗体が陽性であり、H I V - 1及びH I V - 2に対するウエスタンブロットによって、H I V - 2感染が確証された。本症例は我が国において初めて日本人として遺伝学的に完全な確証が得られたH I V - 2感染例である。


【健康危険情報】

我が国においては、既にH I V - 1及びH I V - 2に対応する体外診断用H I V抗体検査試薬によるスクリーニングが行われているが、H I V - 2に対応しない抗体検査システム及び遺伝子増幅法を用いた場合、感染を見逃すおそれがある。

HIV2型日本人初感染

西アフリカで輸血の男性

国内では極めてまれなエイズウイルス(HIV)2型に、日本人男性が感染していたことが3日、分かった。これまで国内でHIV2型の感染が確認されたのはいずれも外国人で、日本人は初めて。厚生労働省は、主流の1型だけでなく、2型についても検査の漏れが生じないように改めて通知を出した。

 HIV2型 世界的に感染の主流となっており、1型に対し、遺伝子のタイプが異なり、感染力が比較的弱いとされる。主に西アフリカ地域で流行。フランスやインドなどでも報告例がある。感染しても潜伏期間が長く、症状の進行も遅いとされている。

同省によると、今年8月、国内の医療機関に入院した男性にHIV感染の疑いが出たため、確認検査を実施したところ、HIV2型であることが判明した。男性は、数十年前に西アフリカで輸血を受けた経験があったという。

西アフリカ地域は、世界で主流の1型だけでなく、2型も流行している地域。男性は輸血を通して感染したとみられている。国内居住者からこれまでHIV2型の感染が確認されたのはアフリカ出身の男性らで、検査のために来日した韓国籍の男性を含めても外国人3例の報告があるだけだった。

国内のHIV検査は、1型であっても2型であっても検出できる体制をとっている。しかし、全国の保健所などで年間約8万件実施している検査で出るのは大半が1型。このため、検査機関で2型への意識が散漫になりかねず、厚生省は8月中旬、各都道府県に対し、HIV2型の検査についても保健所や医療機関などで見落としのないよう通知を出した。

吉倉広・元国立感染症研究所所長「さまざまなの国とこれだけ人の行き来がある中で、HIV2型への日本人の感染は当然予想されたものというべきで、保健所や医療機関の検査で見落とさないようにすることに尽きる。また、2型の今後の広がり把握するため、HIV感染の監視制度の在り方についても、コストの点を考慮しながら検討を進めていく必要があるだろう」

平成18年9月4日(月) 産経新聞 朝刊

HIV2型

日本人に初の感染

厚生省、検査徹底を通知

エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが三日、分

かった。同省によると、国内滞在中の外国籍の感染者は過去に報告があるが、日本人感染者の確認は初めて。

同省によると、今年8月、国内の医療機関に入院した男性にHIV感染の疑いが出たため、確認検査を実施したところ、HIV2型であることが判明した。男性は、数十年前に西アフリカで輸血を受けた経験があったという。

国内のHIV検査は、1型であっても2型であっても検出できる体制をとっている。しかし、全国の保健所などで年間約8万件実施している検査で出るのは大半が1型。このため、検査機関で2型への意識が散漫になりかねず、厚生省は8月中旬、各都道府県に対し、HIV2型の検査についても保健所や医療機関などで見落としのないよう通知を出した。

吉倉広・元国立感染症研究所所長「さまざまなの国とこれだけ人の行き来がある中で、HIV2型への日本人の感染は当然予想されたものというべきで、保健所や医療機関の検査で見落とさないようにすることに尽きる。また、2型の今後の広がり把握のため、HIV感染の監視制度の在り方についても、コストの点を考慮しながら検討を進めていく必要があるだろう」

ある男性。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。

男性は気管支ぜんそくの症状で国内の医療機関に入院。治療を受け回復し、既に退院している。

日本での2型の感染確認はこれまで、検査のため来日した韓国籍の男性ら計三例の報告がある。

「2型」に日本人初感染

厚労省、検査徹底を通知

エイズウイルス（HIV）のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が

確認したことが三日、分かった。同省によると、国内滞在中の外国籍の感染者は過去に報告があるが、日本人感染者の確認は初めて。

厚労省は、医療機関や2型の感染が確認された同省によると、HIV

のは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。

男性は気管支ぜんそくの症状で国内の医療機関に入院。治療を受け回復し、既に退院している。入院時の一次検査でHIV感染の疑いが分かり、確認検査で2型と分かった。エイズ研究班を通じて八月に厚労省に情報提供

された。日本での2型の感染確認はこれまで、検査のため来日した韓国籍の男性や、定住者のアフリカ出身の男性ら計三例の報告がある。

厚労省によると、保健所や医療機関で実施されているHIVの一次検査では、1型、2型を問わず感染の疑いを判別。その後実施される確認検査では、1型と2型を別々に調べる必要がある。同省は「通常は両方も調べており緊急対応が必要ない状況ではないが、感染がまれな2型の検査が抜け落ちると見逃す恐れがあり、検査の徹底が必要」として、都道府県などに通知を出し、管内の保健所や医療機関に対し注意喚起するよう求めた。

見落とし防止必要
吉倉広・元国立感染症研究所所長の話。さまざまに国とこれだけ人の行き来がある中で、HIV2型への日本人の感染は当然予想されたものというべきで、保健所や医療機関の検査で見落とさないようにすることに尽きる。また、2型の今後の広がりを把握するため、HIV感染の監視制度の在り方についても、コストの点を考慮しながら検討を進めていく必要があるだろう。

エイズウイルス（HIV）2型 世界的に感染の主流となっている1型に対し、遺伝子のタイプが異なり、感染力が比較

的弱いとされる。主に西アフリカ地域で流行。フランスやインドなどでも報告例がある。潜伏期間が長く、症状の進行も遅いとされている。

では、1型、2型を問わず感染の疑いを判別。その後実施される確認検査では、1型と2型を別々に調べる必要がある。同省は「通常は両方も調べており緊急対応が必要ない状況ではないが、感染がまれな2型の検査が抜け落ちると見逃す恐れがあり、検査の徹底が必要」として、都道府県などに通知を出し、管内の保健所や医療機関に対し注意喚起するよう求めた。